



Phase1:排泄に関する技術開発の現況調査

■第2回

日 時：2012年2月3日（金）11：00～13：00

場 所：ユニ・チャーム ヒューマンケア株式会社

ヒアリング対象者：田中哲也氏（ユニ・チャーム ヒューマンケア株式会社

セールスエンジニアリング部部长／福祉用具専門相談員）

《ヒアリング先に選定した経緯》

- ・「ユニ・チャーム ヒューマンケア株式会社」の販売する商品「ヒューマニー（尿吸引ロボ）」が2011年の国際福祉機器展にて発表され、実際にその試体験をしたところ、介護軽減機器として将来性があると感じた。担当技術者の方に誕生の経緯、今後の方向性等についてヒアリングに伺った。

《ヒアリング概要》

1. 商品誕生の背景

- ・「ユニ・チャーム ヒューマンケア株式会社」は、「ユニ・チャーム(株)」と「株式会社 日立製作所」の共同出資により2009年3月に設立。
- ・ヒューマニー誕生の経緯としての第一は介護負担の軽減。現在おむつを使用している方の中のほとんどがおむつ内に小さなパッドを使用し介護者が昼夜問わずそれを交換している。しかもそのうち約6割の方は夜中にもパッドの交換をしている。そのような状況を打破すべく開発に取り組んだ。現在も利用者の声を聞きながら日々研究を継続中。

2. 製品の説明（ヒューマニーのデモンストレーションとその説明）

【機器について】

- ・尿吸引パッドに内蔵されたセンサーが排尿を検知し、尿を瞬時に自動吸引。尿吸引ロボ内の尿タンクにたまった尿はトイレに捨てることができる。

【4月より介護保険が適用されること】

- ・2012年4月の介護保険法の改正に伴い、現在は購入品（購入金額は福祉用具購入補助額の上限¥100,000としている）だが、福祉用具のレンタル対象に特殊尿器が参入された。

購入品は消耗部分のみとなり、現在よりも低価格での利用が可能となるため、利用者の拡大を目指している。

3. ヒューマニーの抱える問題点と改善に向けて

- ・一昔前までは「介護負担軽減」を目的としていることを宣言することは介護の手抜きなどの意見もあり難しい面があったが、最近では老々介護の問題などもあり徐々に認識が変わりつつある。ただし、都市部と地方での認識には温度差があるようにも感じている。
- ・現在では介護をされているお子さんが親御さんのために購入されるケースもある。
- ・寝たきりの方が使用するものという概念を払拭するためにポータブルにこだわり、バッテリーで利用で

きるようにしている。反面、重量を重くすれば音は響かないようにできるが、軽さにこだわっているために使用中の音がある程度は残ってしまっている。そのため、外出時に使用するのがためられる欠点もある。また、機械そのものもバッテリー部分等が大きくなってしまいう現況がある。

- ・尿の出方は千差万別なので、様々な感想を頂きながら利用者に対応できるよう努力している。
- ・尿漏れ対策に望むべく、尿探知のセンサーや集尿パッド、エチケット面にさわやかに乾いた状態を持ってもらえる素材の開発など、様々な方面のステークホルダーとの連携をとりつつ開発に取り組んでいる。
- ・介護保険適用後、さらに深いニーズの声を集めながら研究開発を進めていきたい。
- ・ヒューマニーの専用パッドの価格は1枚あたり約300円で、通常のパッドに比べてコスト高になっている原因としては「生産規模(数量)」の問題が大きい。ヒューマニーの販売台数は累計約3000台で、3000人の利用者がいるとしてもパッドは1日1枚なので1日に3000枚生産すれば足りる計算になる。通常の紙オムツは1枚あたり100円程度だが、これは1日に数万～数十万枚もの生産が可能な大掛かりな設備投資で合理化を図ることによってコストダウンを実現している。

利用者の増加に伴う生産ライン増加によるコストダウン、さらなる利用者開拓のためにレンタル事業に期待している。

4. その他の意見交換

- ・現在の集尿タンクは1ℓだが、外出用にもう少し小さいタンクを設けるなど様々な容量のタンクを可変できるとよい。利用者のニーズを聞きつつよりよい商品にしてほしい。
- ・国内のみならず、デンマークなど現在必要とする国も多いのではないかと？そうしたニーズを開拓しつつ、大きく育てて欲しい。
- ・ヒューマニーは尿の吸引だが、便についても考えていきたい。今回の話の中で出たバキュームだけにこだわらず、様々な方面から、様々な研究者や技術者と現在持つ問題を解決すべく考えていけるとよい。
(例、筋肉の専門家、海外との連携など)

《参考資料》

ヒューマニー（尿吸引ロボ）宣伝用チラシ

ヒューマニー尿吸引パッド 男性用チラシ

ヒューマニー通信「らくらく介護」（2010年10月）